

令和 4 年度

第 2 5 回 彦根総合高校卒業証書授与式

式辞

遠く見晴るかす伊吹の残雪が春の光にまぶしい季節となってまいりました。湖面を渡る風も暖かく、そんな風光る今日、第 2 5 回卒業証書授与式を挙行できますことは本校として大きな喜びであります。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

2 1 世紀に入り人工知能技術が加速度的に進展し、決められたマニュアル通りの仕事は人工知能にとって代わられる、と言われはじめました。地域基盤社会・高度情報化社会の進展は、私たちの想像以上のものであり、今やあらゆる情報や知識がデジタル化され、瞬時に世界中を飛び回り、世界の人口も 8 0 億人を超えました。もし、世界中の人々が日本と同じ暮らしをしたら、地球が 2 . 9 個必要になるそうです。豊かで便利な生活は、それだけ未来に負荷をかけている様が浮かびます。一方、昨今は、災害の時代でもあります。いまだ解決の糸口させ見いだせないウクライナに見る容赦ない戦争に、先月発生したトルコ・シリア大地震では 5 万人以上の方がなくなり 1 9 0 万人以上が住む家を失ったとみられ、あたりはがれきの山と化し

ています。

そして、コロナによる流行は3年を超え、皆さんにとってもこの高校3年間は、非常事態宣言による休校にはじまり、まさにマスク越しの3年間でもあり、様々な制約や苦勞が生じた密な3年間でもありました。異常な状態が、常態化しているといわざるを得ません。本当に日本はこれでいいのか？私の生き方は、これでいいのか？今ある自分に問いかけて欲しいと強く思います。

そんな激動の時代にあって、みなさんは、この3年間、楽しいこと、悲しいこと、嬉しいことがあり、そこにはいつも友達、先生、家族の姿がありましたね。今、私が言いたいのは、彦根総合高校という学び舎で学んだことを力として是非とも生き抜いて欲しいと言うことです。

私は、始業式や終業式などを通していろいろなメッセージをみなさんに送ってきました。「あたりまえを続けると特別が生まれる」ということも訴えたのでした。身の周りの様々な当たり前を続けることができましたか。また、あるときは「夏休むな」なんていうことを語ったときもありましたね。この3学期の始業式では、新しい時代にあたらしい景色を共に見よう！と、話し、「高みを目指すものは、常に前進して

いる」といった紙を職員室前に掲示しています。先日は、甲子園初出場という朗報も舞い込み、この春は、甲子園という夢舞台で本校の生徒がさわやかな春風を力の限り吹かせてくれると思います。

さて、いろいろなメッセージをみなさんに贈ってきましたが、私から卒業生のみなさんへ贈るメッセージは今日が最後となります。

考えてみてください。能力というのは、失敗するか成功するかの「経験」によって身につきます。「楽をする」ということは、つまり「その経験を避ける」ということです。だからずっと楽をしていたら、自動的に無能になって、誰からも見向きもされなくなります。もったいないですね。人生の価値は「誰に褒められるか？いくらもらえるか？」では決まりません。「自分の給料はこれくらいだから、これくらい手を抜いておこう」なんて考えはじめたらその通りの、額面通りの人間になってしまいます。そんなものは人生の価値じゃありません。

人生の価値は、人生の時間を使って得た自分自身の経験で決まります。数多くの人に出会い、いろんなことをいっぱい体験しましょう。それこそが人生を終える瞬間の、自分の価値になります。

そして、もし何かに迷ったときには「自分は楽を選んでいないかどうか」を気をつければいいですよ。そうしたらきっと間違えないで、今よ

り確実に前に進むことができます。

加えて、人が生きていくためには、どうしても「自信」が必要です。でも、自信はお金では買えません。いばっていても手に入りません。自信を身につけるには、「やったことがないことをやる」しかないのです。

その「やりたいこと」を見つけるためには、感動すればいいのです。感動は、人の心に本気のスイッチをいれます。「わーすごい！」「やってみたい！」と心を震わせることができたなら「やりたいこと」はどんどん見つかります。しかもなぜか、その夢はどんどん実現していくのです。

理由は、「感動」という言葉にあります。この言葉には、実はすごい秘密が隠されています。日本語の感動を、ローマ字で書くと「c a n d o」になります。みなさんならできるという意味ですね。

是非いっぱい「感動」してください。、アメリカの航空宇宙局 N A S A のゲートに、今から 8 0 年前に刻まれた文言にもこんなのがあります。

「D r e a m c a n d o ! R e a l i t y c a n d o」 思い描くことができれば、それは現実になる。人生は節目があるからこそ、次の成長があるのです。今日がその節目のひとつでもあります。

今日を境に、みなさんは新たなスタートをします。人生これからです。勇気と自信を持って、感動に満ちた人生を歩んで欲しいと思います。

最後にもうひとつ、お伝えします。

忘れないで欲しい最後の最後のメッセージです。

社会が変わったんだから仕方がないかもしれませんが。これも時代の変化だと穏やかに受け入れてしまう人もいるかもしれませんが、読書はしなくてもいいものではなく、是非とも習慣化すべき技であると思っています。自分の生きている存立基盤を考えますと読書を核とした向学心や好奇心が実に重要だと思えてきます。是非とも、皆さんにとっては、自分自身の自己形成が読書に大きく負っていることを認識してもらいたいですね。私自身、現在 対話するときにも読書経験が大きくプラスに働いていると日々感じています。

人生のいかなる時期にあっても、当然、知っていることよりも知らないことの方が多いです。だから知ることには「もう遅い」ということにはなりません。

是非とも本をいっぱい読んで下さい。

今日皆さんにお渡しした卒業証書。初めて総合学科とフードクリ

エイト科という2種類の卒業証書をお渡しました。中には補講を受けた人もあるでしょう。しかし、皆さんは立派に高校卒業という切符を手にしたわけです。この先は、新幹線でも急行でも普通列車の旅でもいいですよ。皆さんが、生まれたとき きっとおうちの方が、心底いろんな思いや願いを込めて付けられた素晴らしいオンリーワンのみなさんの名前が書いてある卒業証書という切符を持って自分らしい旅をスタートさせてください。

皆さんを待ち受けるこれからの時代 大きな波が打ち寄せてきます。本当に大きなうねりとなってくることでしょう。しかし、どんな波にも 楽をせず、立ち向かい、そしていっぱい感動ある人生を送ってくれることを願っています。

私は、すばらしい君たちに出逢えて、本当に幸せでした。

ありがとう。本当にありがとう。

最後になりますが、保護者のみなさま、積年の思いが重なり、さぞ感無量のことと推察いたします。本日はまことにおめでとうございませう。

本当に すばらしい生徒達でした。

そして、どんな時でも彦根総合の子どもたちを見守って頂いた多く

の方々、保護者のみなさまに心より感謝を申し上げ、私の式辞といたします。

令和5年三月三日

彦根総合高等学校

校長 菅井 孝明